

平成26年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立桐蔭高等学校 学校長名： 岸田 正幸 印

目指す学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる
-------------------	----------------

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、 精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 主体的な学習姿勢の育成と教員の更なる指導力向上に取り組む
	2 生徒に進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組を行う
	3 自主的・自律的な生活習慣・学習習慣を確立させる
	4 中高連携による一貫教育の具体的方策の提示を行う

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (2月20日 現在)		
重 点 目 標					年 度 評 価 (2月20日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	生徒の学力をより高いレベルまで伸ばすことが現在の課題である。目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに、主体的な学習態度の育成を図る取組が必要である。	主体的な学習態度を育成するために、生徒に計画的に課題を提示し、授業内容の改善に取り組んでいるか。 生徒の実態把握に努め、きめ細かく継続的な指導を行っているか。また、学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	・研究授業・公開授業の実施、また校内研修等による「授業力」の向上 ・進学補習や基礎補習の充実 ・学年・教科等の連携による継続的な家庭学習時間確保の指導 ・家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科間の情報交換協議	・研究授業・公開授業の実施 ・校内研修・現職教育の実施 ・各種補習の総時間数 ・実態調査における家庭学習2時間未満の生徒の割合の減少 ・学年会での情報交換・協議の実施	研究授業や公開授業は各教科で実施され、また校内研修は10年研対象の教員を中心に継続的に行われた。夏期補習については日程的な問題もあり日数が減ったため総時間数は減少したが、出席率は上昇した。一方基礎補習は夏期休業中に3教科実施したがクラブの大会等で十分参加できない生徒もいた。家庭学習2時間未満の生徒の割合は近年大きな変化は見られなかった。学年会で情報交換はしているが、協議の面で不十分な点が残る。	B	次年度は授業改善を目的とした桐蔭FDや桐蔭STが導入されるので、それらの委員会と教務が連携をとりながら研究授業を実施していく必要がある。また基礎補習についてはクラブの状況も考え実施時期の検討が必要である。家庭学習時間の増加のためには学校・生徒・家庭の連携はもちろん、いかに教師が動機付けをし、主体的な学習態度を育成できるかが今後の課題である。同時に計画的な課題提示が出来るか検証していく。
2	生徒の多くは、入学時より難関大学進学を目指し、将来を見据えた高い志を持っている。この生徒たちに必要な基礎となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促し、一人ひとりの進路希望の実現と将来に向けた組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的自律的に学習できるか、具体的な取組が系統立てて展開されているか。 社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的にしているか。	・研究開発のために教育課程に設定された「キャリア桐の葉Ⅳ」の各プログラムの実施 ・桐蔭リーダー塾や桐蔭総合大学等の体験学習の機会の有効活用 ・「進路だより」による継続的な生徒へ働きかけや進路講演会、オープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加による啓発 ・3年間の進路計画に沿った、日常的な面談を通したキャリアカウンセリングの実施 ・教員の指導力強化と生徒情報の共有のための現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施	・「キャリア教育・進路に関する調査」、「身に付けさせたい力」、「学びの意識調査」等の各種調査を用いた分析評価 ・開催回数や参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査 ・「進路だより」の発行時期と内容 ・生徒の進路選択に対する意欲や進路意識の変容 ・実施回数と教員への事後調査	「キャリア桐の葉Ⅳ」では年度開始時の体育館に1年生全員を集めての「桐蔭の学び」による学習法の指導、「リーダー塾」での将来への展望、「30年後の私」による模擬体験など多くの啓発的実践を実施し活用できた。日々の進路指導では、担任との面談、進路講演会での学習意欲の喚起、模試受験と結果返却による大学受験に対する意識付けと学習内容の復習、毎月1回程度の進路便りにより、必要な意識の喚起を促すことができた。模試分析会により勉強につまずいている生徒の指導や、より高いレベルへの引き上げをすることができた。教員の指導力強化のために、東大京大入試問題研究会への積極的な参加や、小論文講座による学習会を実施することができた。	A	「キャリア桐の葉」の配当時間について、3年間の指導計画を踏まえてそのメリット・デメリットを検討する。体験的な学習については、規模の拡大を図りつつ、取組の実効性を検証していきたい。進路関係の情報を保護者に対してこれまで以上に発信していく必要がある。このため、進路便りにおいて保護者を意識した記載内容に調整していくこと、模試を活用した組織的な復習サイクルを各教科で作ること、3年間を見据えた進路目標を見直し、各学年を4期に分けて目標を設定し学年団で共有すること、模試分析会の分析項目を明確にして、毎回同じ視点で分析会を実施し指導に活かすこと、を改善の方策としたい。
3	生徒は概ね規律ある学校生活を営むことができているが、遅刻、身だしなみ等において課題の残る生徒もいる。学習活動、クラブ活動、学校生活全般について常に自主的・自律的に取り組める力強い生徒集団をはぐくむ必要がある。	生徒が自律的な生活態度を身に付け自己管理能力を高めているか。 ・遅刻指導 ・交通安全指導 ・身だしなみ指導 ・下校指導 が適正に行われているかどうか。	・年間を通した毎朝の校門指導の実施 ・交通規則の遵守、交通マナーアップ・安全意識と公共心の育成 ・正しい服装・頭髪についてアセンブリー等あらゆる機会を通した啓発 ・19:00完全下校制度の継続実施	・通年遅刻者数の前年度比減 ・遅刻者0日の増加 ・年3回の駐輪指導 ・月2週間の自転車安全運転交通指導 ・PTAと連携した自転車通学に係る交通指導 ・年3回の学年別身だしなみアセンブリー実施 ・下校時間遵守の計画的指導	遅刻指導については、毎朝の校門指導や遅刻0週間等を通しての指導を行った。遅刻者は前年度より若干(-0.2人)減少した。交通安全指導については、日頃の自転車安全運転交通指導やPTAとの一斉指導、アセンブリーやホームルーム等を通しての指導を行った。自転車事故の件数も昨年の20件から8件に減少した。身だしなみ指導は各学年年間3回のアセンブリーのほかホームルーム等を通しての指導をおこなった。全体として落ち着いているが一部の生徒の制服の着こなしに問題があった。	B	遅刻指導・交通安全指導・身だしなみ指導については、一定の成果が出ているものの、継続して粘り強く指導すること、また全職員で指導していくことが肝心であり、生活指導部より様々なアナウンスをしていきたい。 下校指導に関しては年度当初に比べて19時頃には下校するようにはなったが徹底できず、計画的指導には至らなかった。下校指導の取組についても検討する必要がある。
4	中高一貫を扱う委員会組織が昨年度変更されたが、具体的な取組に関して検討する機会が減少している。	中高一貫の具体的な検討が進んだか。 教員の相互乗り入れに関する成果と課題を共有できたか。	・相互乗り入れを行う教員を中心とした情報と意見交換会の開催 ・次年度に向けた成果と課題について職員会議での検討	・年間3回以上の情報意見交換会の実施 ・次年度の相互乗り入れの内容の検討	昨年度から委員構成が変わり教科代表中心となった。相互乗り入れも5年が経過し当初の役割は達成できたと考えられるので、今後は教科の視点以外の連携が必要になっていく。	B	授業乗り入れ以外の交流が不十分であるので、今後は職員の交流としては桐蔭FDを利用するとともに、生徒自身の交流については行事等の機会を活用していけないか考えていく。

学校関係者評価
平成27年2月20日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>教職員自己評価、生徒評価、保護者評価の結果を受けて、学校評議員(兼学校関係者評価委員)の皆様から頂いたご意見等をまとめると、概ね次のとおりである。</p> <p>(1) キャリア教育の充実、桐蔭スタンダードテストの作成、桐蔭FDの設置、HPの全面刷新、インフォメーションディスプレイの設置等、具体的な取組を校長のリーダーシップの下、チーム桐蔭として進めていることが伝わってくる。</p> <p>(2) 部活動にもしっかりと力を入れ、文武両道を実践すべく、生徒がいろんなことに挑戦することは、社会に出た時に「自ら人生を切り拓く力」となることはまちがいないので、今後もぜひ続けていってほしい。</p> <p>(3) 月1回のケース会議の開催等、教育相談の組織的な体制が整っていることも評価できる。</p>